



東京都が小平市内で予定する道路計画をめぐり、住民参加で計画を見直すかどうかを問う小平市の住民投票が十六日、告示された。条例に基づき実施する都内初の住民投票で、二十六日の投票。開票予定は二十七日だが、投票率50%未満の場合は不成立となり、開票もされない。直接請求で住民投票の実施を求めてきた市民らは街頭に立ち、投票の呼び掛けに力を入れた。

「道路計画に市民の意思を示す貴重な機会です。投票率50%を超えて、住民投票を成功させましょう」。市民グループ「小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会」のメンバーら約二十人は、午前十時から市役所前に

立った。マイクで投票を呼び掛け、会手作りのカラーちらしを手渡す。

都道計画は、五十年前に決定された小平都市計画道路3・2・8号府中所沢線（引用者：下に注あり）。小平中央公園の雑木林を貫き、玉川上水の緑道を分断、住宅約二百二十戸の立ち退きを迫る。

「計画に住民の意見が反映されていない」として、会は署名七千八百八十三人分を添えて住民投票条例案を直接請求。三月に市議会で可決した。ところが、四月の市長選後に小林正則市長が「市民の意思として結果に実効性を持たせるため」として、投票率50%の成立要件を加える条例改正案を市議会に提出、可決した。

このため投票率が50%を超えないと住民投票は不成立となる。成立すれば、市長は投票結果を尊重し、市民の意思を都や国の関連機関に通知しなければならない。十五日現在の有権者数は十四万五千六百四十八人。

#### ◆住民ら「必ず行く」

「小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会」のメンバーは、四月半ばからはほぼ毎日、街頭に立って投票を呼び掛けるちらしを配布するなどして市民の関心を高めようと活動してきた。

会の共同代表水口和恵さん（51）は「この住民投票を突破口に、最も影響を受ける住民の意見を聞かない都市計画道路の在り方のおかしさを訴えたい」と強調する。住民投票についての市民の認知度は高まりつつある。市役所前でちらしを受け取った主婦（38）は「近所の人と、賛成でも反対でも投票に行こう、と話しています」。

水口さんらの街頭の訴えに耳を傾けた無職男性（72）は、市が投票率50%の成立要件を追加提案して決まったことに「今回だけは腹に据えかねる。市民感覚からずれ、常識外れだ」と憤る。無職女性（74）も「投票には必ず行く。だから、結果も知りたい。開票しないのはおかしいですよ」と疑問を投げかけた。

水口さんは「市長選の投票率は37%だった。50%を超えるのはかなり厳しいと思っているが、頑張りたい」と話した。会は投票日まで連日、街頭で投票を呼び掛けるほか、十八日に意見交換会、十九日に計画地を歩く会なども予定している。

（北爪三記）

#### <小平都市計画道路3・2・8号府中所沢線>

国分寺市東戸倉2から小平市小川町1までの約1・4キロに幅32～36メートル、片側2車線を備える計画。1963

年に都市計画決定された。町田市から東村山市まで6市にわたる計約27キロの一部で、区間に続く北側は整備され、南側は事業中。都が重点的に整備を進める多摩南北主要5路線の一つ。都は周辺道路の渋滞緩和や災害時の緊急物資輸送、避難などに効果があるとして、今夏の事業認可取得を目指している。